

(別添4)

愛知県愛西市

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申（令和3年1月）及びそれに続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。これまでの先進事例等の研究から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と「ICT活用」はベストミックスであると言われてるように、これらの実現において、1人1台端末の活用は、重要な役割を担っている。

今回の端末更新では、市内小中学校18校において、それぞれの学校や児童生徒の実態等に応じて、GIGAスクール構想により整備されたICT環境のもと、研修や授業研究を行い、1人1台端末の効果的な利活用に向けての実践を図ってきた。今後、GIGAスクール構想第2期に向けて、リーディングDX指定校の先進事例等も踏まえた上で、以下のような児童生徒の、学びの姿を目指していきたいと考える。

はじめに、「個別最適な学び」の実現において、児童生徒は、1人1台端末を通じて、個々の理解度や学習ペースに合わせた、より1人1人の児童生徒の実態に応じた学習計画に基づいて学びを進めるものとする。さらに、学習データを活用し、生成AI等により、リアルタイムにフィードバックを受けたり、学習におけるアドバイスを受けたりすることで、自らの可能性を最大限に引き出すことができ、学習に対して、高いモチベーションを維持することを目指す。

次に、「協働的な学び」の実現において、児童生徒が、他の児童生徒、地域の方々、専門家等とチャットやオンライン会議で繋がり、課題解決に取り組む機会をより増やしていくことで、多くの他者の考えに触れ、自己の考えを広げ深めることができるようにする。また、グループワーク等を通じて、多様な他者と協働することを通じて、現実社会で必要とされる非認知的スキル等を身に付けさせる。

本市では、ICTの特徴や役割を理解し、ICT機器を主体的に活用できる児童生徒を育成していく。

2. GIGAスクール構想第1期の総括

本市では、「iPad端末」を採用し、令和元年度に賃貸借契約により236台、令和3年度に国の令和2年度補正予算により4,719台を購入し、合計4,858台の1人1台端末を整備し、併せて「G Suite（現：Google Workspace for Education）」及び「ロイロノ-

ト)、「eライブラリ」を導入した。

また、通信ネットワークや周辺機器等も含めた ICT 環境においても、令和3年度までに整備が完了している。なお、一部教科については、指導者用デジタル教科書を導入した。

これらの ICT 環境の整備に加え、教育委員会では、ICT 支援員を配置するほか、ICT 教育指導員の配置や、教員の研修会を他市と合同開催するなど、教員の ICT 活用指導力の向上に計画的に努めてきた。

また、令和6年4月に実施された全国学力学習状況調査の学校質問紙では、タブレット・ICT 機器に関わる項目において、以下の回答であった。(本市及び全国平均値については、小学校・中学校それぞれの平均値を単純平均したものである。)

質問事項	本市	全国
前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）の ICT 機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	週3回以上 100.0%	92.4%
教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	ある・どちらか とえばある 87.5%	93.0%
コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	そう思う・どちら かと言えそ う思う 100.0%	86.8%
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でのどの程度活用しましたか	週3回以上 95.9%	92.0%
調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備にされた PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用されていますか	週3回以上 91.7%	73.5%
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか	週3回以上 58.3%	53.5%
教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか	週3回以上 62.3%	58.6%
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか	週3回以上 37.5%	43.1%

調査対象学年の児童生徒が自分の理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	週3回以上 25.0%	47.5%
前年度に、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	年1回以上 37.6%	53.1%
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	よく活用している・どちらかと言えば活用している 45.8%	72.3%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	時々持ち帰って、時々利用させている以上 83.3%	85.4%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次の用途でどの程度活用していますか	週1回以上	
(1) 不登校児童生徒に対する学習活動の支援	25.0%	45.9%
(2) 希望する不登校児童生徒に対する授業配信	8.4%	35.1%
(3) 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援	54.2%	63.3%
(4) 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援	54.2%	21.1%
(5) 児童生徒の心身の状況の把握	95.9%	34.5%
(6) 児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援	0.0%	13.4%
障害のある児童生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援をどの程度行いましたか	よく行った・どちらかと言えば、行った 16.7%	15.7%

調査の結果からタブレットなどのICT機器の授業での活用に関しては、全国平均以上あるものの、児童生徒同士や学校外の施設の人々とのやりとりや、児童生徒の理解度・進度に

合わせた課題等 1 人 1 人の実態に応じた学習まで取り組めていない状況であると言える。

特に、持ち帰り学習状況については、学校間で取り組みの差が生じているため、誰 1 人取り残すことのない「令和の日本型学校養育」の構築のためには G I G A スクール構想第 2 期を契機に課題解決につなげていきたい。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末の積極的活用については、「愛西市 GIGA スクール構想の実現に向けたプロジェクト」（以下、「プロジェクト」という。）に基づき実施し、プロジェクトの現状を把握するために調査にし、毎年度ローリング方式で内容を見直すものとする。

併せて、下記事項についても実施する。

(1) ICT 研修の充実

授業や校務における ICT 活用に関する校内研修の実施や、外部機関等が実施する研修会に積極的に参加できる体制をつくる。また、クラウドを活用して、新任者及び転任者に関わらず全ての教員が、これまで実施した研修内容がいつでも確認できるように整備する。

(2) ICT 支援員の活用の促進

ICT 支援員については、令和 6 年度は全 18 校に対して 5 人を配置しており、基準の 4 校に 1 人（3.6 校／人）を満たしている。1 校あたり年 41 回、1 回あたり約 6 時間程度の支援をしており、今後も引き続き、各校週に 1 回は訪問できる体制を整備する。

(3) 1 人 1 台端末の普段使いの取組

本市全小中学校 18 校で 1 人 1 台端末の日常的な利用に向けた取り組みを行っていく。現状では、一斉利用すると通信負荷がかかり、速度が遅くなることから、日々の利活用について、敬遠する教員がいたが、今回の端末更新に向けて、ネットワーク環境の改善をすることで、通信の応答遅延が解消されるため、利活用研修等と併せて日常的な利活用を促進する。

(4) デジタル教科書の利用

指導者用については、小学校は国語及び社会・地図・算数・理科を、中学校は数学及び理科を G I G A スクール構想第 1 期時において既に全校で利用されている。今後は、英語をはじめとした教科の指導者用デジタル教科書のほか学習者用の利活用を推進する。

(5) 「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の充実について

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめる、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、積極的に 1 人 1 台端末を活用することができるよう発達段階に応じた児童生徒の姿を「情報活用能力」及び「情報活用スキル」、「情報モラル」の指針を示し、タブレット端末の基本的内容について共通理解を図

り、ICT 部会等において、具体的な活用事例の情報共有を図る。また、市内教員が情報共有できるためのクラウドを活用した仕組みをつくり、広く周知を図る。

4. 今後の計画について

これらの現状等を踏まえ、以下の項目について重点的に取り組むことで、1人1台端末の利活用を促進する。

(1) 研修等の充実

- ・ 職層ごとに求められる ICT 活用スキルや受講者のニーズに合わせ、ICT 機器を使った情報活用に関する研修会を全ての教員が受講できる体制を構築する。
- ・ 「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の充実のため、市教職員会各部会にて具体的な活用事例を共有する。

(2) 教員への情報提供

- ・ 校務支援システム等を活用し、端末の利活用の促進方法の事例提示や具体的な情報機器の活用方法の情報提供を行う。
- ・ 「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の充実のため、活用事例を一元化してクラウドを活用して共有する。
- ・ リーディングDX指定校の活用事例、生成AIの活用等、先進的な取組事例を各校に展開する。

(3) 全ての児童生徒の学びの保障

- ・ 不登校や日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒等へのオンラインを活用した指導の充実を図る。
- ・ 児童生徒の特性に応じたデジタル教材の整備を図る。